



視点

第45回全国夏期セミナー 長野大会in松本を終えて

全国夏期セミナーの直前には熊本地震が発生、各地で豪雨災害も多発し被災された方々にお見舞い申し上げます。

長野大会には606名もの皆さんが現地とオンラインで参加してくださり心から感謝申し上げます。

大会の準備にあたっては、長野県内で41団体の後援を頂きました。この後援取得、そして南北に長い県内各地から実行委員会に集って大会準備をしてくれた現地実行委員会の仲間を改めて頼もしく思っているところです。

セミナーを振り返ると、記念講演ではフォトジャーナリスト安田菜津紀さんの講演から過酷な現状を生きる子供たちの現状を知ることができました。守られるべき弱者が武力紛争の最大の被害者であることが心が痛みます。弱者に寄り添う支援をすることが文化や習慣の違いを尊重する平和への希望となることも分かりました。フォトジャーナリストとしての活動は役割分担だとのこと。私にはどのような支援ができるか考えたいと思っています。平和な社会で暮らすことは、例外なく全ての人々の権利であり、私たち自身が権利を守る当事者でもあると自覚することができました。

シンポジウムでは現状を知ることの重要性と性の多様性講座を受けた子どもたちがどのように変わったのかがデータで報告されました。性の多様性についての理解度を学力テストのようなもので評価することには難しさがありますが、何かしらデータによって実践の成果を評価することは有意義です。そういう意味で松本市の性の多様性講座の継続によるデータの蓄積は、今後この講座を充実していくための研究材料になると思います。

理論講座では思考の偏りを知ることから始まり、権利とは何かを学び、そして思考を耕し感性を磨くことが包括的性教育の研究実践にとって大変重要だと分かりました。自分の子ども時代を振り返ってみ

ても、性の学びが提供されず、家族や地域の中で性に関することを話すことは非常識で恥ずかしいことという慣習がありました。これは学ぶ権利の剥奪であると同時に、学ぶ権利を自覚させない巧妙な社会システムだったと思います。「包括的性教育」は人々を幸福へと向かわせる原動力です。性に関する偏見から解放され、皆に十分な学びが保障されるために、私たち自身が学び続け、実践し続けていきましょう。

二日目の模擬授業と分科会の会場は熱気に満ちていました。理論と実践を皆さんと共に学び深めることができ、これからの活動に大きな力を頂きました。全国から参集された皆さんの顔を拝見して、家族と過ごしているように安堵し、力を蓄えることができました。

一日目と二日目とも当初の想定を超えた多くの方々の申込みがあり満席となりました。当日参加の受付をお断りすることになり、大変心苦しく、申し訳なく思っています。

三日目のオプションツアーでは、昨年の沖縄大会から今年の長野大会へとリレーされたことに運命的なものを感じます。沖縄戦は松代（長野県長野市）の大本営地下壕建設と裏表のように深く関わっているのです。平和について重層的に、そして実感を持って学ぶことができました。

結びに、本部実行委員長はじめ大会に関わってくださった全ての皆様に御礼申し上げます。これからも、一人でも多くの方に包括的性教育が提供されるよう力を合わせていきましょう。



田村綾乃
(第45回全国夏期セミナー
長野大会in松本 現地実行委員長)